

II 特別連載 II

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第340回

### 福井大学の活動報告



石垣 将宏  
(福井大学 学術研究院工学系部門  
原子力安全工学講座  
助教)

#### ベトナムから招へい

#### 世界の中での日本の原発技術

福井大学は2014年度から「さくらサイエンスプログラム」により、ベトナムから学生や若手教員を招へいしてきました。最近の2年間は新型コロナウイルス感染症の影響のため、オンライン交流会を通じてベトナム側との関係を維持・発展させてきました。これまではベトナムの2大学から10名を招へいしてきましたが、より多くの機関と参加者に日本文化および福井大学での学びを知ってもらうため、今年度は参加機関数と人数を増やして6つの大学・研究機関から16名を招へいました。この16名に、福井大学敦賀キャンパスを中心とした原子力教育と福井県嶺南地方における原子力関連施設の現場に触れてもらうことで、将来日本への留学を検討するきっかけとなつてもらえればという願いを込めて同プログラムを開催しました。以下、それぞれの日付で行った実施内容と招へい者の様子を報告します。



10月23日に招へい者は関西国際空港で福井大学教員と合流し、送迎バスに乗って正午前に福井大学敦賀キャンパスのある敦賀市に到着しました。この日は敦賀駅前にある商店街や氣比神社宮散策し、敦賀市の中心街の様子に触れてもらいました。10月24日午

プログラムスケジュール	
1日目	関西国際空港 → 敦賀 敦賀市内散策
2日目	開講式、原子力研究に関する特別講義、ガイダンス 日本人学生・ベトナム人学生のグループディスカッション
3日目	原子力基礎実験(放射線計測) 福井県原子力環境監視センター見学
4日目	関西電力美浜原子力発電所見学 福井県立敦賀高等学校の生徒との交流
5日目	福井大学文京キャンパスの見学、留学説明会、閉講式 福井 → 関西国際空港
6日目	関西国際空港から帰国

前に敦賀キャンパスで開講式を実施。ここでは福井大学の紹介や同プログラムの経緯について説明を行い、また「地震学と原子力災害対策」に関する特別講義を行いました。午後は、日本人学生とベトナム人招へい者の混合チームによるグループディスカッションを行い、お互いの国の文化や技術の共通点や違いについて、また持続可能な社会の実現へ向けに必要なことについて各グループの考えをまとめ、プレゼンテーションしてもらいました。この企画は前年度のオンライン交流会でベトナム側より提案されたアイデアを実現したもので、日本人学生とベトナム人招へい者の間で活発な議論が展開され、相互の理解を深めるものとなりました。

10月25日午前は原子力に関する基礎実験として放射線計測実験を行いました。ベトナム人招へい者は自分が納得するまでお互いが活発にコミュニケーションを行っていたのが特に印象に残りました。午後は敦賀市内にある福井県原子力環境監視センターを見学し、福井県における原発周辺および県内の放射線モニタリングについて学んでもらいました。

10月26日午前は、関西電力美浜原子力発電所を見学し、原子力発電の仕組みや安全対策の取り組みについての説明を受けました。ベトナムには2022年現在稼働している原子

力発電所が無いため、実際に運転中の原子力発電所を見学できることは非常に印象的だとの感想が聞かれました。

午後は福井県立敦賀高等学校を訪問し、高校2年生約20名との交流会を行いました。前半はお互いの自己紹介を行ってから日本の伝統的な遊びであるけん玉やコマ、あやとり、お手玉などを実際に体験してもらった内容で、高校生と活発に交流している姿が印象的でした。後半は放射線測定器を用いた実験を行い、放射線に関する基礎的な事項を学びつつ、双方の交流を深めながら議論を行うことができました。

福井におけるプログラム最終日である10月27日午前、福井市にある福井大学文京キャンパスの見学を行いました。ここでは構内の高層の建物から福井市内を一望し、その後図書館の言語開発センター(LDC)や留学生用の寮の和室を見学しました。続いて、福井大学職員による留学生ガイダンスと福井大学在籍のベトナム人留学生から日本の生活について紹介してもらいました。最後に閉講式を行い、修了証を授与しました。その後、送迎バスにより関西国際空港近くの宿泊先まで移動し、翌28日にベトナムへと無事帰国しました。

### ● 日本人学生からの感想と今後の展望

グループディスカッションに参加した日本人学生からは次のような感想がありました。「本プログラムを通してベトナムと日本の原子力発電所に対する考え方の違いを感じた。ベトナムの学生は原子力発電所の新規建設にとっても意欲的な印象だった。中には日本のように原子力発電所を多く有している国が羨ましいと言う学生もいた。多くの学生は原子力発電所を作るための技術や知識に価値を感じ重視しているようだった。日本では多くの原発の廃炉が決まり、廃止措置の技術を重視している印象のため、日本とベトナムの価値観の違いに驚いた。現在の日本ではあまり重要視されないような技術でも、世界では重要視されるような技術があると実感した。世界では原子力発電所の新規建設を目指す国が多くあり、それらの国に対して日本が出来ることが数多くあると思う。今回のプログラムをきっかけに『日本における原子力発電所』ではなく『世界における日本の原子力発電所』を考えることの重要性を感じ、自身が学んでいることを新たな視点で考えるきっかけとなる、とても貴重な経験であった。そして、日本と違う地域で原子力を学ぶことで新たな魅力や問題点に気付けるのではないかと考え、来年度の留学を決意した。」



放射線計測実験中の活発な議論



日本の伝統的遊具を用いた高校生との交流

ベトナムからの学生との交流を通じて、「世界の中の日本の技術」に意識が向くようになったようで、ベトナムの学生だけでなく、日本人学生にとっても貴重な経験を得る機会となりました。

3年ぶりの招へいでこれまでより参加人数を増やして開催することができ、ますますベトナム側との関係性が深まってきている実感があります。同プログラムを通じて一人でも多くの招へい者に日本や福井大学に興味を持ってもらい、将来の学生の留学や研究交流へ発展していくことを願っています。

最後に、さくらサイエンスプログラムの実現のために多大なご支援を頂いた科学技術振興機構(JST)に心より感謝申し上げます。



福井大学文京キャンパスにおける集合写真